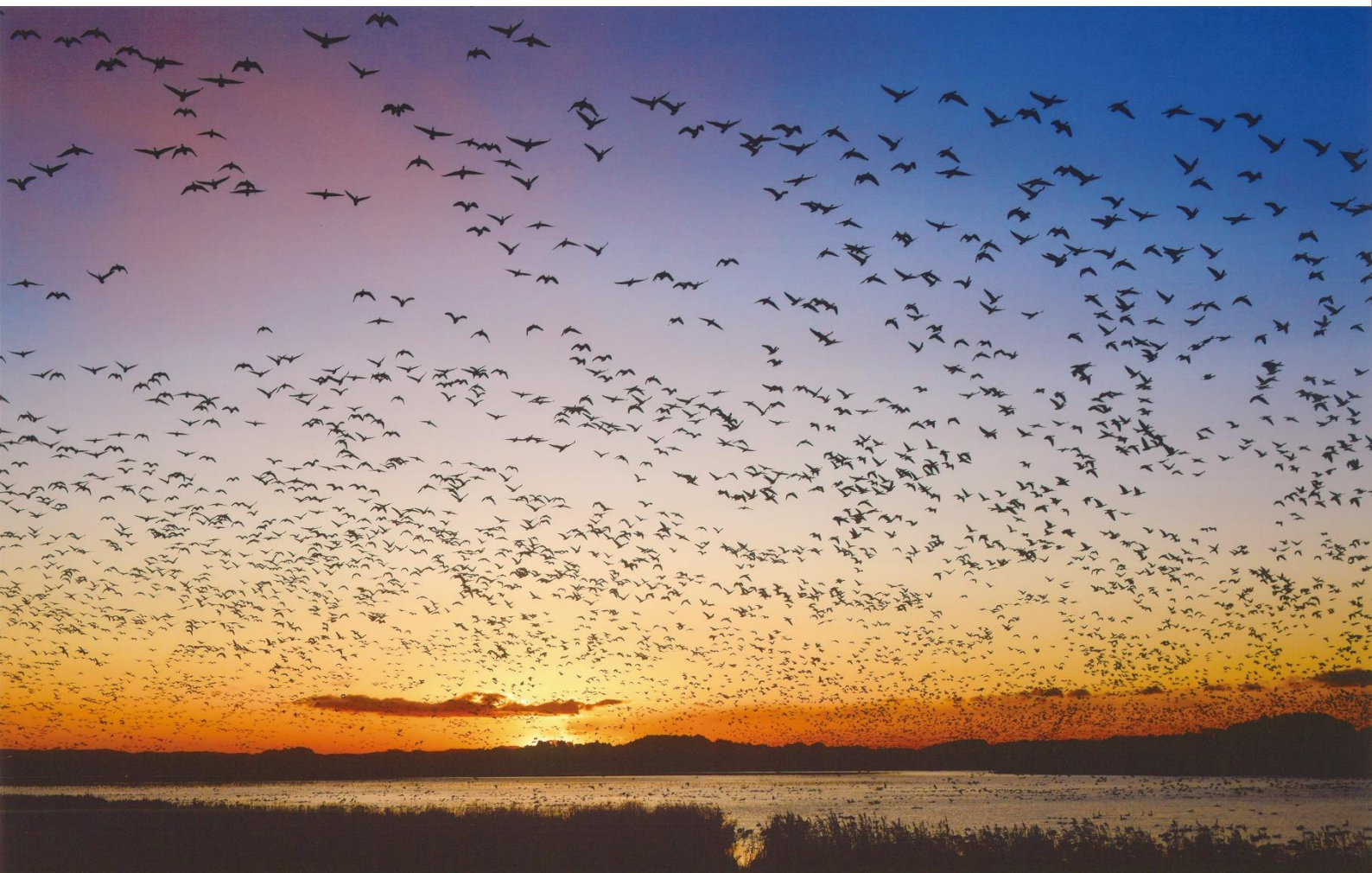


第29回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト 最優秀賞(宮城県知事賞)



「夜明けのドラマ」 佐藤 浩章 福島県南相馬市

県内外から多数の応募があり、日本写真家協会員の井村淳氏が審査を行なった結果、20点の入選作品が決まりました。当センターでは、応募全作品を2月1日よりご覧頂けますのでご来館下さい。その他、入選作品を各施設巡回展示いたします。

展示のスケジュール

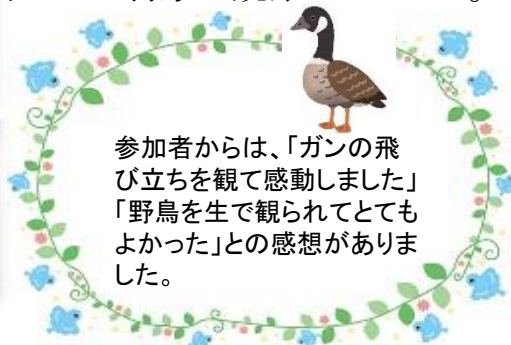
期間	会場	
2/1～3/31	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	全作品
5/1～5/27	登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	入選作品
6/1～6/29	登米市役所1階ロビー	入選作品
7/1～7/30	栗原市役所1階ロビー	入選作品
8/1～8/30	JRくりこま高原駅オアシスセンター	入選作品

自然体験講座で野鳥を観察

第10回伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛び立ち観察会&沼歩き探鳥会」が1月11日に行われ、県内外から20名が参加しました。夜明けのマガンの飛び立ちや沼周辺の様々な野鳥を観察しました。



一斉に飛び立つマガンを観察



参加者からは、「ガンの飛び立ちを観て感動しました」「野鳥を生で観られてとてもよかった」との感想がありました。



木に止まったトビを発見



滝川高校と多賀城高校が伊豆沼で体験学習

講義内容「伊豆沼・内沼の生き物と保全」について



文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されている北海道滝川高校と宮城県多賀城高校の皆さまが、1月5日に伊豆沼において実習を行いました。当財団の研究者が伊豆沼・内沼の自然環境や保全活動について講義を行い、続く野外実習では「朽ち木割り」をしクワガタムシやコメツキムシの仲間ムカデなどの越冬昆虫を採取しました。伊豆沼・内沼には、水鳥をはじめ多くの生き物が住んでおり、これらは沼の中だけでなく沼周辺のヤナギ林やヨシ原などを利用して生活しています。多くの生き物の住める伊豆沼・内沼を守るためには、多様な環境を保全する必要があることを実感して頂けたと思います。

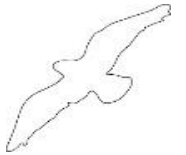
第14回 伊豆沼・内沼研究集会在開催されます

今年度も伊豆沼・内沼研究集會を下記の日程で開催します。国内有数のガン・カモ類の飛来地として知られる伊豆沼・内沼では、地域住民、行政、研究者などが一体となり環境の保全や環境教育、自然と人のふれあいの場を作る活動が行われています。近年では、増えすぎたヒシなどの水草を効率的に減らす取り組みや、ドローンなどの新たな技術を用いた保全の取り組みが行われています。研究集會は、伊豆沼・内沼で研究活動を行っている方々に日頃の成果を発表していただく場となっています。どなたでも参加できますのでお気軽にお越しください。



開催日時：令和2年2月15日（土）13時30分～17時00分

場所：宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター 1階研修室



新田小学校が最優秀賞・優秀賞を受賞しました

「伊豆沼の未来新聞」で、新田小学校が最優秀賞や優秀賞を受賞しました！11月に沼で魚たちの調査を一緒に行った新田小学校が、この時勉強した内容をまとめ「第12回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール」で最優秀などを受賞しました！受賞作などを拝見しましたが、子どもたちが考える「夢」は、大人とは違う魅力があり、子どもたちが10年後も20年後も夢を描けるような沼を残していかなばと、改めて思いました。

おめでとう
作品の展示について

- ・中田庁舎 1月27日(月) ~ 1月31日(金)
- ・南方庁舎 1月31日(金) ~ 2月6日(木)
- ・迫庁舎 2月17日(月) ~ 2月21日(金)
- ・イオンタウン佐沼店内(セントラルコート) 2月7日(金) ~ 2月16日(日)



勉強会のようす

伊豆沼・内沼生き物図鑑 — ゼニタナゴ *Acheilognathus typus* —

貝の中で冬越しする魚

ゼニタナゴは二枚貝に産卵する不思議な生態を持っています。秋に産み付けられた卵は、今、貝の中で冬越ししています。じっと過ごして8カ月。6月には8mmくらいに成長した稚魚が貝の中から出てきます。今、沼で復活しつつあるゼニタナゴ。まだ私たちは沼で稚魚を確認していませんが、もしかすると、沼の貝の中で、春の到来をじっと待つゼニタナゴがいるかもしれません。



ゼニタナゴの稚魚

